

G-TELP (General Tests of English Language Proficiency) のご案内

●G-TELP とはどのようなテスト？

■ **アメリカで開発・制作**されている世界共通のテスト。

・開発元：International Testing Services Center (San Diego, CA, U.S.A.) <http://www.itsc-group.com/>

・開発年：1984年

・開発者

ロバート・ラド博士（元ジョージタウン大学言語学部長）／フランス・ヒノフォ
テス博士（元 UCLA 応用言語学部助教授）らを中心とするチーム。

・開発経緯

ロバート・ラド博士は TOEIC、TOEFL の制作にも関わる。TOEIC、TOEFL のようなスコア制でなく「英語力のどこが弱い、強いかなどの診断情報を提供するテストが必要」として、G-TELP を開発。

・アメリカはもとよりアジア圏、特に韓国では TOEIC® と同じ用途で活用されています。

■ **ネイティブスピーカーでない人が、実際の場面で、どの程度英語をコミュニケーション手段として駆使する能力を有しているかを測定するテスト。**

■ **テストのレベルが 5 段階**設定されているテスト。

（各レベルの目安については「■他テストとの相関表」参照。レベル 4 の下にレベル 5 があります。）

■ **問題のテーマ、題材が日常生活を想定**しているテスト。

■ **マークシート形式で、グラマー・リスニング・リーディング&ボキャブラリー**を測るテスト。

■ **日本では大学、短期大学にてプレースメントやアチーブメント**

ト等で活用されているテスト。

■ **この他にパソコン・インターネット上で受験する「スピーキングテスト」・「ライティングテスト」**も新たに登場。

■ **G-TELP では、スピーキングテスト、ライティングテストを含める**

と「文法」と併せて「読む」「聞く」そして「話す」「書く」技能、英語力のトータルスキルを測定することができます。

G-TELP	TOEIC	TOEFL	英検
Level 1	990点	650点	1級
	900点		
Level 2	800点	550点	準1級
	700点		
Level 3	600点	500点	2級
	500点		
Level 4	400点	400点	準2級
	300点		
	200点		3級

※テストの性格や判断基準が異なるため、あくまで目安として考えてください。

●どのように活用されているの？

G-TELP は現在、大学・短期大学にて広く活用されています。

「資格」という用途ではなく、プレースメントテストやアチーブメントテストなどの教育ツールとして活用され、教育ツールに適したテストシステムとなっています。

① **プレースメントテストとして**。（習熟度クラス編成のため、センター試験を受験しなかった学生のため、リメディアル教育対象者選抜のためなど。）

- ②アチーブメントテストとして。(成績の伸びの把握のため。)
- ③成績評価の一部(客観的尺度)として。(GPA、単位の質、評価の平準化などのため。)
- ④教育効果の可視化、大学 IR の一環として。(客観的データ蓄積、結果の有効活用のため。)

●G-TELP の ‘よさ’ とは? – ご利用いただいている大学の声 –

▼内容・質面

- ネイティブが制作したテストであること。(世界標準であること。)
- 受験者集団に適したレベルのテストを選択**できること。
受験者集団にあったレベルを選択して実施。得点が固まる集団に焦点を当てることにより得点がばらつきやすくなります。
- 内容面が、「Business English」だけでなく「**General English**」であり、特に**1・2年生にはとつきやすく、「教養英語」にもマッチしている**こと。
- 単に知識やテスト技術を測るのではなく、**場面と状況に応じた英語運用能力を測っている**こと。
- 試験時間が短い**こと。(65~75分程度で終了する。レベルによって異なる。以下参照。)

	レベル1		レベル2		レベル3		レベル4		レベル5	
	問題数	時間	問題数	時間	問題数	時間	問題数	時間	問題数	時間
Grammar			26問	20分	22問	20分	20問	20分	16問	15分
Listening	30問	30分	26問	30分	24問	20分	20問	15分	16問	15分
Reading & Vocabulary	60問	75分	28問	40分	24問	35分	20問	30分	18問	30分
Total	90問	105分	80問	90分	70問	75分	60問	65分	50問	60分

※レベル1には Grammar はありません。

▼実施実現性・データサービス面

- 同じレベルに異なるテストが 10~20 種類あり、複数回の試験実施に対応可能なこと。
- 結果データのフィードバックが早い**こと。(別途費用はかかりません。)
- 結果データ及びクラス分け資料や事後分析資料用のデータなど**可能な限りカスタマイズをしてくれる**こと。(原則、別途費用はかかりません。)
- 学生にもスコアレポート(個人成績票)がフィードバックされること。
- 受験料が比較的安価**なこと。
- その他、**会場別テスト資材の梱包、成績表の担当教員別梱包などにも対応**してくれること。

※お問い合わせ先

G-TELP 日本事務局 担当: 沼田

〒112-0004 東京都文京区後楽 1-1-1TK セントラルビル 7 階

TEL: 03-3868-0184 FAX: 03-3868-0145

E-mail: numata@g-telp.jp